

南アルプス市立八田中学校 前期自己評価書

平成26年8月27日(水)作成

学校長：奥山 邦次	記述者：教諭 清水 英樹
1. 校訓 「日日新」 2. 本年度の学校教育目標 「知育・徳育・体育」の調和のとれた人間形成 は 励んで学び、確かな知識を持つ生徒 (知育) → 知の力 つ 強い精神と身体を持つ生徒 (体育) → 体の力 た 助け合い、いたわり合う心を持つ生徒 (徳育) → 心の力	
3. 学校経営方針 (1)職員の創意・工夫により、開かれた特色ある信頼される学校づくりに努める。 (2)生徒理解を深め、一人一人のよさや可能性が生かされるよう努める。 (3)教職員としての資質能力の向上を図り、信頼される教育活動の実践・展開に努める。 (4)家庭・地域との連携により、望ましい教育環境づくりに努める。 4. 生徒の努力目標 (1)授業にしっかり取り組もう (主体的・能動的・積極的に取り組めたか) (2)さわやかに挨拶をしよう (今日の、この出会いを大切に出来たか) (3)思いやりの心を行動につなげよう (相手の身になって考え行動できたか) (4)主体的に活動しよう (3本の木を大切にし、創意工夫を持って取り組めたか) 5. 教師の努力目標 (1)社会や地域の変化に対応できる力を持ち、常に自らを見つめ直していく教師 (2)異なるものを受け入れ児童生徒の特性を見いだし伸ばしていく教師 (3)教職に対する責任感、探究力を持ち、生涯にわたり学び続けていく教師 (4)教員と児童生徒、また教師同士で互いに学び合い、育て合っていく教師 6. 学校経営の努力点 (1)知・徳・体の調和の取れた、「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成と実施に努める。 (2)自ら学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る指導に努める。 (3)豊かな人間性をはぐくみ、心の安定を図る生徒指導に努める。 (4)体力・健康・安全に関する指導の充実に努める。 (5)家庭・地域・関係機関との連携を深め、開かれた信頼される学校づくりに努める。	
I 全体評価 1. 教職員の自己評価 (1) 本年度の特徴 《A・B (肯定的評価) において》 ①A・B (肯定的評価) の合計が90%未満の項目について 「学校運営3 (77%)」が90%未満であった。 ②A評価が10%以上向上した項目について 「学校運営5・6」「教育課程2・5」「生徒指導1・3・5」「特色ある学校1・2」以上9項目であった。 A評価が10%以上減少した項目について 「生徒指導4」「特別活動2・4」以上2項目であった。 《C・D (否定的評価) において》 ③C (否定的評価) が10%増えた項目について 「特別活動1・2・3」「生徒指導6」以上2項目であった。 D (否定的評価) が、ついた項目について 「学校運営3」以上1項目であった。 ④C・D (否定的評価) の評価がまったくない項目 「学校運営1・4・5」「教育課程1・2・3・5・7」「生徒指導1・2・3・5」「特別活動4」「開かれた学校1」以上14項目であった。昨年は18項目。	

(2)平成25年度より改善・向上した項目

昨年度は、A・B（肯定的評価）が90%未満の項目が4項目あったが、1項目だけになった。また、A評価が10%向上した項目が4項目から9項目になった。

(3)2学期の取り組み課題（自由記述より）

基本的には落ち着いた生活を送れているが、様々な面で積極性に欠ける点が見られる。学校訪問者に対しては比較的挨拶をしているようであるが、教職員や仲間など、より積極的に挨拶ができるようにしていきたい。

昨年度の課題であった、人の話を聞く姿勢や態度は向上してきている。一方、下校時間を守るなどの時間を意識して生活を送ることができるかは依然課題である。

学習面では、基礎基本を定着させる学習指導を展開し、学力向上を目指していきたい。特に今年度は、「自主学習ノート」を取り入れ、学習意欲向上に向けても取り組んでいる。取り組みを始めたばかりなので、効果が表れて来っていないが、地道に取り組んでいく事で、家庭学習の定着及び学習意欲の喚起が図られ、学力が向上するであろうと考える。

2. 学校生活に関する生徒アンケート

(1)本年度の特徴

A・B（肯定的評価）の合計が80%未満の項目(全校集計から)について

○全29項目中、4項目である。生徒が学校生活全般に渡り肯定評価している傾向が如実である。

5項目は以下に示す。

「学校運営1」（79%）「教育課程2」（79%）「生徒指導1」（79%）

「特色ある学校2」（79%）

「教育課程7あなたは、自主学習ノートの取り組みが、自分の学力向上になると思いますか。」（72%）は、今年度よりの新しい評価項目である。

※80%以下項目ではあるが「教育課程7」以外は80%に近い評価であった。

(2)3年生の評価について 【昨年前期2年→本年前期】

①2年次よりA・B（肯定的評価）が向上した項目について

27項目中15項目である。うち10%以上向上した項目は、1項目であった。

「学校運営1」（88%→90%）「学校運営3」（94%→96%）「学校運営6」（90%→94%）

「教育課程4」（84%→86%）「教育課程6」（89%→95%）「生徒指導2」（88%→90%）

「生徒指導4」（94%→96%）「生徒指導6」（90%→96%）「特別活動1」（83%→94%）

「特別活動2」（93%→97%）「特別活動3」（91%→97%）「特別活動4」（88%→95%）

「特色ある学校1」（94%→99%）「開かれた学校1」（86%→88%）

「学校生活全般3」（96%→99%）※昨年後期の項目と比較

全29項目あるが、「特色ある学校2」3年生は、TT形態の数学の授業は今年度から行っている。

また、「教育課程7」も本年度の取り組みになっている。ため、比較していない。以降2年生も同じである。

②否定的評価(C・D評価)が高い項目（20%以上）について

3項目である。

「教育課程7」（42%）「特色ある学校2」（22%）「学校生活全般2」（22%）

*他の26項目は、A・B評価（肯定評価）がすべて80%以上であった。

(3)2年生の評価について 【昨年前期1年→本年前期】

①1年次よりA・B（肯定的評価）が向上した項目について

27項目中12項目である。

「学校運営1」（56%→63%）「学校運営2」（95%→97%）「学校運営3」（85%→88%）

「学校運営4」（85%→92%）「学校運営5」（92%→97%）「教育課程2」（68%→71%）

「教育課程5」（79%→80%）「生徒指導6」（77%→81%）「特別活動2」（85%→87%）

「特色ある学校1」（85%→89%）「学校生活全般1」（79%→84%）

「学校生活全般3」（86%→91%）※昨年後期の項目と比較

②否定的評価(C・D評価)が高い項目（20%以上）について

11項目だった。

「学校運営1」（37%）「教育課程2」（29%）「教育課程3」（29%）「教育課程4」（33%）

「教育課程7」（34%）「生徒指導1」（30%）「生徒指導2」（21%）「生徒指導3」（30%）

「特別活動3」（30%）「特色ある学校2」（25%）「学校生活全般2」（21%）

*他の18項目は、A・B評価（肯定評価）がすべて80%以上であった。

(4) 1年生の評価について

1年生はすべての項目において肯定的評価（A・B評価）が80%以上であった。
＊うち21項目は、肯定的評価（A・B評価）が90%以上であった。

(5) 2学期の取り組み課題

- ① 昨年度の課題であった、「学校運営1 学校教育目標達成のため」について、学活や集会・各種通信等を機会と捉え日々啓発していった結果、80%近くまで向上してきている。しかし、学校目標の達成がすべての教育活動に繋がっていくものであるゆえ、目標を明確にして意識した学校生活を送れるよう指導したい。
- ② 「教育課程7」において、本年度より取り組んでいる、「自主学習ノート」の取り組みについて、生徒の意識の低さが明らかになった。昨年度の学力学習状況調査の生活アンケートから、家庭学習が定着していないことの反省を受け、取り組みを始めた。すぐに結果がでるものではないので、日々地道に取り組むことで、家庭学習の定着を目指したい。
- ③ 学習面や部活動、また進路に対しては高い意識があるので、学校目標に対する具体的な関連づけができるよう、明確に狙いを持って取り組んでいく。今後も生徒達の「知・徳・体」の調和のとれた育成に尽力していきたい。
- ④ 3年生は昨年度に比べ、肯定的な項目が非常に多くなってきている。これは、最上級生としての自覚から意識が高まった結果と考えられる。しかし、その反面肯定的な項目でも4項目「学校運営4」「教育課程2」「教育課程5」「生徒指導1」の評価ポイントが下がった。さらに否定的な3つの項目「教育課程7」「特色ある学校2」「学校生活全般2」においては重点的に取り組みを強化していきたい。その中でも特に学習面では進路決定に向けてしっかり取り組んでいきたい。
- ⑤ 2年生は全体的に評価の上がった項目が多く見られる。しかし、昨年度は肯定的であった「教育課程3」「生徒指導1」「生徒指導3」「特別活動3」が大きく下がっている。今後、道德の授業を進めていく中で、「私たちの道德」等の資料を活用して、心の教育の推進を図るとともに、学校教育活動全体を通じて豊かな心の育成に取り組んでいきたい。それと同時に、家庭・地域等の連携を図り生徒に寄り添う生徒指導を進めることも忘れてはいけな い。
- ⑥ 1年生は全項目が肯定的な評価80%以上と非常に高い評価である。「生徒指導1」「特別活動1」が肯定的な評価が84%と低くなっているので、より人間関係づくりや目標をしっかり持たせた取り組みをしていきたい。

中学校生活が始まって3ヶ月が経過したが、意欲を持って取り組む姿が表れている。しかし、学校生活にもなれてくると、徐々に意欲が低下してくることも考えられる。2学期は数々の学校行事を通じて、学級・学年の絆・信頼感・連帯感を培かい、より、質の高い2年生を目指して、日々取り組んでいきたい。

Ⅱまとめ(成果と課題)

この学校評価では、評価基準として教職員自己評価のA・B評価が90%以上,生徒アンケートのA・B評価が80%以上に設定した。この基準からは「肯定感と満足感」が伝わり、大きな教育成果のひとつとなると捉える。

- 学校運営については、教師・生徒とも高い評価が表れている。生徒の「学校運営1」は、79%と80%に達していないが、昨年度と比較すると7%と向上しており生徒達の意識の高まりを感じる。特に「学校運営2」は教師・生徒共に非常に肯定感が高い評価となっており、本校の特色である三本の木「合唱・部活動・応援」に対する意識の高さを感じる。これは、年間を通じて生徒と教師が一体となって取り組んできた成果である。
- 教育課程については、「教育課程1」の教師は100%の肯定的評価になっており、生徒側も89%と高くなっている。しかし、「学校生活全般2 授業はわかりやすい」は、昨年度84%から83%に下がっている。これは、教師側の授業準備はしっかりできているが、授業を受ける生徒達がよりわかりやすく、理解しやすい授業の展開がまだ確立されていない点があると考え。今後は校内研究を通して、さらに研究を深める必要がある。

「教育課程2」「教育課程3」「教育課程4」は肯定的評価がほぼ80%であるが、学活や道德の授業を通して、一人一人の良さを認め、伸ばせるような指導をより意識して取り組む必要があると考える。

「教育課程7 自主学習ノートの取り組み」は、1年生は92%と肯定的な評価が高いものの、学年が上がるごとに低くなってきている。これは、事前に自主学習ノートの取り組みについての目的や趣旨、取り組み方法について説明しているが、すでに自分の学習ペースの出来上がっている生徒にとっては、さらに、課題を増やす状況となり、自らの課題に取り組むことができないのではと考える。しかし、基礎学力が身につけていない生徒にとっては、家庭学習の定着は必須である。すぐに結果が出るものではないが、日々地道に取り組んでこそ成果が出るものであると捉え後期の結果を見ていきたい。

- 生徒指導については、教師の側の肯定的評価が非常に高くなっている。しかし「生徒指導1 それぞれにあったアドバイス」は肯定的評価が昨年度の87%から79%に下がっている。教師と生徒のつながりや友達との人間関係を確立し、生徒たちの持っている力を伸ばせるアドバイスに心がけ取り組んでいく事が大切である。

「生徒指導3 先生同士・先生と生徒・相互に協力し」は2年生の肯定的評価が昨年度の84%から70

%と大きく下がっている。これは、学年職員 6 人中 5 人が新しい教師となったため、生徒との繋がりが深まっていないことも原因の一つであると考え。今後は、より相互関係を深めることで生徒とのコミュニケーションを深め、生徒との信頼関係を築いていきたい。

「生徒指導 6 休日の過ごし方充実している」は、昨年度 85%から 89%と向上しており部活動や家庭などで良い過ごし方をしている結果である。

教師「生徒指導 6」と生徒「学校生活全般 3」では、いじめをなくすための意識の高さを感じる結果となっている。しかし、教師側でも指導について不安を感じている教師も見られる。一教師が取り組むのではなく、学校全体で取り組んでいくことは必須である。また、「学校生活全般 3」でも肯定的評価が昨年度の 91%から 96%に向上している。これは、学校全体で取り組んできた成果であり、生徒総会でも「いじめ 0 の宣言」を生徒全員で確認したことにある。今後も気を抜くことなく、Aの項目評価 100%を目指して取り組んでいく必要がある。

- 特別活動については、どの項目も高い評価が表れている。特に「特別活動 1 進路学習や校外学習に向けた取り組みなど」は、肯定的評価が昨年度の 80%から 86%と向上してきている。2・3年生ともに向上しているのは、目的を持った取り組みが確立しているからである。3年生においては、自分の将来に向けての意識の高まりであり良い結果であると考え。しかし、「特別活動 3」「特別活動 4」において、2年生の評価が下がっていることが気になる点である。委員会・部活動のリーダーとして活躍できない立場であることも原因の一つであると考え。今後、3年生に向け、立場の重さや最上級生としての自覚を持たせることで向上していくと考える。また、部活動では、新人大会に向けて中心選手として取り組むことで自信を持たせたい。
- 特色ある学校について、教師の肯定的評価は、2項目とも 95%である。生徒の「特色ある学校 1」では肯定的評価が昨年度の 90%から 94%に向上している。これは伝統として生徒の意識の中に定着してきているからである。年間を通して行われる合唱の取り組みにおいて、2学期が山場を向かえる。1学期の「独唱・合唱集会」の反省を生かしながら、学園祭・合唱コンクールで伝統である「合唱」を継承し、さらに新たな試みを導入することで合唱の意識を高めたい。
- 「特色ある学校 2 数学の T T 授業隊形で学習の成果」は、肯定的評価が 79%である。今年度は全学年で取り組んでいる。大切なことは、基礎基本が身につけられるよう一人一人の生徒に対応していくことである。
- 開かれた学校について、本校では年 3 回の学校開放を実施している。その中でも来校数がもっとも多いのは、学園祭や合唱コンクールなどの学校行事である。子どもの成長した姿や活躍する姿を見る楽しみは、来校の明確な目的である。より多くの来校者が訪れるよう、生徒・保護者に啓発していきたい。
- 学校生活全般について、「学校生活全般 1 学校生活が楽しい」は肯定的評価が昨年度 83%から 87%と向上している。生徒達にとって「学校生活が楽しい」や「授業がわかる」ことは学校教育目標の重点である。さらなる向上を目指してより楽しい学校生活が送れるよう、学年や学級単位の活動や生徒会活動を生かして、全教職員のバックアップ体制で取り組んでいきたい。

3年生は前年に比べて多くの項目が向上しており、これまでの2年間の成果が確実に表れている。特に、特別活動においては意識の高さを感じる結果となった。また、進路に対する意識も高く、自分の将来に向けて期待と不安を感じているようであるが、キャリア教育をさらに充実させ、個に応じた進路選択が行えるよう取り組みたい。また、学力向上の一面としての家庭学習の定着も図りたい。

2年生の評価は1年次と比較すると下がりぎみの項目が例年より多く見られた。「中だるみ」と言われる学年ではあるが、項目によっては90%を越える高い評価もでている。今後は、個々に目を向けることを忘れずに、学級担任はもとより、全教職員が一丸となって、さまざまな場面で声を掛けたり、深いかかわりを持って行くことが大切であるといえる。

1年生の評価は非常に高くなっている。しかし、いくつかの項目に焦点を絞って、指導していく必要もある。特に「特色のある学校 2」では、より効果的な学習計画を見直す中で取り組んでいきたい。